

赤潮・貧酸素情報（7）

平成29年7月10日

各漁業協同組合長 殿

福岡県水産海洋技術センター
豊前海研究所長

7月10日に沿岸調査を行った結果、有害プランクトン、カレニア・ミキモトイの赤潮が苅田本港内で認められており、その他各漁港内や沖合域での出現が認められています。

なお、貧酸素水塊の発生は認められませんでした。

○カレニア・ミキモトイ、シャットネラ属の細胞密度

7月10日調査

番号	採水場所	採水層	カレニア・ミキモトイ (細胞数/海水1ml)	シャットネラ属 (細胞数/海水1ml)	プロセントラム・デンタム (細胞数/海水1ml)	珪藻類 (細胞数/海水1ml)
①	柄杓田漁港	表層	2	0	0	—
		底層	7	0	0	—
②	今津漁港	表層	0	0	0	—
		底層	260	0	9,150	—
③	恒見漁港	表層	0	0	0	—
		底層	17	0	0	—
④	人工島	表層	2	0	0	7,200
		底層	0	0	0	—
⑤	松山漁港	表層	16	0	0	—
		底層	1	0	4	—
⑥	苅田本港	表層	19,320	0	1,100	—
		底層	480	0	1,200	—
⑦	苅田南港	表層	170	0	150	—
		底層	40	0	5,700	—
⑧	蓑島漁港	表層	5	0	0	—
		底層	3	0	0	—
⑨	沓尾漁港 (新港)	表層	4	1	0	—
		底層	10	0	0	—
⑩	稲童漁港	表層	29	0	0	—
		底層	499	0	0	—
⑪	八津田漁港	表層	6	0	0	—
		底層	46	0	0	—
⑫	宇島漁港	表層	2	0	0	—
		底層	1	0	0	—
⑬	吉富漁港	表層	0	0	0	—
		底層	0	0	0	—
⑭	吉富地先	表層	0	0	0	10,500
		底層	0	0	0	—

○カレニア・ミキモトイは、数千～1万細胞で魚介類に被害を及ぼします。

このような海域では、定置網やかご等、また蓄養の魚介類がへい死する恐れがありますので、警戒をお願いします。

○今回の調査ではシャットネラ属の細胞数は大幅に減少していますが、同種は赤潮状態に達しない少ない細胞数(海水1ml中に数十細胞)でも、魚類などをへい死させるおそれがありますので引き続き注意をお願いします。

○プロロセントラム・デントラムや珪藻類は海水の変色を引き起こしますが、魚介類への影響はないとされています。しかし貧酸素を引き起こす可能性がありますので十分注意してください。

○漁獲物の港内での蓄養は避け、早めの出荷を心がけてください。

○今後も天候次第では、さらに増殖する可能性や貧酸素が発生する可能性がありますので、着色が認められていない港でも十分注意してください。

○研究所では、引き続き調査を実施しますので、今後の赤潮情報に十分ご注意下さい。

今後、漁業被害、海面の着色などがみられましたら、豊前海研究所(0979-82-2151、担当：恵崎、俵積田)までご連絡下さい。

図 調査海域図

